

第三章 薔薇の毒、原液実験

闇司祭 「「きげんよう。新たな被検体の様子はいかがかしら？」

ナース 「「覧の通りでござります。射精回数二回、回復実験もすでに終了しております」

闇司祭 「記録は？ 見せて」

女医 「カルテはこっち」

闇司祭 「あら、ありがとう」

女医 「どういたしまして。まったく、来るのが早いのよ。もう少し、わたしたちを信頼してくれてもいいのに」

闇司祭 「信頼しているからこそ、最初の実験は任せたじやない。これで文句があるのかしら？」

女医 「大有りでござりますよ、パトロン様」

マリナ（ヤバい……この人、見た目からなにからふたりとは違う……医者とナースのほうが優しかつたって理解させられるとか言つてたけど、もうヤバいつてわかる。この人は、本気で私を実験台にする気でいる……人間じやなくて、物として扱おうとしてる……）

【マリナ、こつそり抜け出そうと[画策する】

闇司祭 「あら、逃げようとするだなんて悪い子ね。あなたが逃げたら、妹が同じ目に遭うつて聞かされなかつたかしら？」

マリナ 「くつ……」

闇司祭 「ナースちゃん、縛り付けちゃつて」

ナース 「承知しました」

女医 「逃げようとしないほうがいいわよ。この女、本気でぶつ飛んでるから」

マリナ （だからつて、どうすれば……）

闇司祭 「おとなしくなさい。命まで取る気はないのだから。記録を見る限り、優秀な被検体であることはわかっているし、長いこと求めていたエルフを血を継ぐ者でもあるし……」
ナースちゃん、毒液の準備を」

ナース 「かしこまりました。すぐに」

闇司祭 「これまでに経験したことがないくらい気持ちよくしてあげるから、期待してなさ

いね」

女医 「わたしは気付け薬でも準備しどうかしら」

闇司祭 「その必要はないわ。ないところまでやるから」

女医 「そう……徹底的にやるのね」

ナース 「司祭様、準備完了です」

闇司祭 「あら、そつちを持ってきたのね」

ナース 「通常の薔薇の毒は大量投与しましたから、濃縮した新薬のほうがいいかと」

マリナ 「新薬……？」

闇司祭 「そう、新薬。濃縮されてる分、効き目はすごいわよ。ふふふ」

ナース 「では司祭様。新薬を注入します」

闇司祭 「ええ、やつちやつて。この精液臭いチンポの出入り口に、いっぱい注いであげて」

ナース 「参ります……ぶちゅううつ」

マリナ 「んんっ！？」

闇司祭 「はーい、ドクドクいっちゃうわよ♪」

マリナ（な、なに……さつきど、また感覚が……変なのを入れられてることに違いはないけど……）

マリナ 「あっ、あ、あっつ……んつ、あつ、ああああつ……！」

女医 「あーあ、原液実験ならわたしがやりたかったのになあ」

マリナ 「くうつ、はああつ……人が大変なときに、そんな呑気な、こと……んんんっ！」

闇司祭 「気持ちよさそうに、チンポを跳ねさせちゃって♪ 記録通り、相性がいいみたいね」

ナース 「そろそろ想定量に達します」

闇司祭 「たぶん、この子には入れ過ぎぐらいがちょうどいいわ。勢いもよくしてあげて」

ナース 「仰せのままに……びゅるるるっ！」

マリナ んぐううう~~~~~!」

闇司祭あらあら、チンボだけじやなくて身体までビクビクしちやつてるわ

マリナ（熱い……おちんちんもお腹も熱くて、もう気が遠くなりそう……）

闇司祭「少しトリップ気味ね。この相性のよさは驚きだわ」

マリナ「注入終了。注入器を引き抜きます」

闇司祭「せつかくの新薬だから、私も注入したいわ。ちよつと貸して……はい、ぶちゅうう」

マリナ 「んああああああつ！」

闇司祭 「これでいいでしょ。抜いてあげて」

ナース「注入器を引き抜きます」

マリナ「ふぐつ……！」

闇司祭 「ナースちゃん。またすぐ注入できるよう準備しておいて」

ナース 「はい」

闇司祭 「じやあ、お待ちかねの実験をしていくわよ」

【闇司祭、マリナの股間へ移動】

闇司祭 「チンポがビクビク震えて、とつてもいやらしいわ。においも濃厚……♪ まずはこれを、手で握つて……」

マリナ 「んんっ……！ あっ、あ、あうっ……！ んんんっ！」

闇司祭 「触つただけで、えっちなおつゅが出てきちゃったわ。これを使って、たっぷりシコシコしてほしいっておねだりしてるみたい」

マリナ 「お、おねだり、なんて……」

闇司祭 「していないと言うの？」

【闇司祭、指先で亀頭をフェザータッチ】

マリナ 「あっ、んっ！ ふあっ！ あああああっ！」

闇司祭「ほら、軽く撫でただけでこの反応なのよ？ おねだりって思われても仕方がないんじやない？」

マリナ「あくつ、んくつ……反応しても、おねだりじや、ない……あああっ！」

マリナ（もう出そう……三）「すり半とかいう言葉があるけど、それ以上に早くイッちゃいそう……」

闇司祭「ちなみに、すぐに出ちやうようなら実験内容を変更して連続射精をさせるわ。だから、我慢できるだけ我慢なさい。ほら、シコ、シコ……」

マリナ「あつ、くう、はつ、んはつ、ん、あ、んんつ……！ ダメつ、出ちやう……もう出る、もう出る……つ！」

ナース「僭越ながら、我慢したほうがマリナ様のためかと思われます。司祭様は、そういうお人ですから」

闇司祭「ナースちゃん、あなたも立つてないで手伝いなさい。耳が空いてるでしょ」

ナース「お耳をちゅぱちゅぱしろということですね。では……あああむう、んちゅつ、れるつ、んれるつ……」

女医「わたしも暇だし、反対側を舐めてあげるわ……はむつ、ちゅつ、れろろろつ、れ

ろれろっ……」

マリナ 「んつ……つつくつ、はあつ、んあつ、あんつ、ああつ……おちんちんだけでもイキそう、なのに……いつ、ああつ、んあつ、ああんつ……耳まで責められたら……っ！」

闇司祭 「あらあら。耳舐めが始まつたら、またえっちなおつゅが増えたわ♪ 耳もチンポも敏感で、とつてもいやらしいわ。好きよ、あなたみみたいな淫猥な子は」

マリナ 「ふう、はあ、ああああつ、んああつ……違う、けどお……あつ、んつ、はああつ、んんつ……！」

闇司祭 「違うけど、なに？ イカせてほしいの？」

マリナ 「じやあ、じや……ああ、んんんつ……ない……」

闇司祭 「じやあ、なんだつて言うの？ シコシコを速くしてほしいの？」

マリナ 「ち、違う……」

闇司祭 「よくわからない子ね……罰として、大好きな亀頭だけをいじくってあげるわ。手のひらを被せて……クチュクチュクチュクチュつ！」

マリナ 「あつ、あ、んつ、んああああつ！」

闇司祭 「はいはい、クチュクチュクチュクチユツ！」

マリナ 「あぐっ、んんっ、んおっ、おおおっ、ほおおっ……！」

闇司祭 「んふふふつ、ビクビクつらそうなのに、さきっぽはどんどんヌルヌルになつてい
くわ♪」

女医 「あむっ、んちゅっ……あんまり動くと舐めにくいから、ビクつくのはおちんぽだけ
にしなさい……れるつ、んちゅっ……そうじやないと、わたしももっとキツいことする
わよ……れるつ、んれるれるつ……」

ナース 「私はべつに構いませんが……れるるるつ、れるつ……先生と司祭様がそのよう
な判断するなら、命令を聞くしかなくなります……じるるつ、じゆるつ……」

マリナ (耳もおちんちんも、気持ちよすぎる……薬の効果がさつきと違つて……つ)

マリナ 「はあはあはあはあ……んんっ！ ああっ！ せめて、おちんちんだけに……それ
なら、まだ我慢できるかもしない……あっ、んんっ！」

闇司祭 「そう言われても困るわ。あなたに我慢をさせるのは目的じゃなくて手段だもの。
それに、快感に悶えてるところを見るのが大好きなのよ。だから、いっぱいビクつきなさ
い。チンポもギンギンに硬くして、我慢汁もたっぷり出して、私を悦ばせて……ふふ

「ふつ」

女医 「んちゅつ、んれるつ……そんなこと言う必要もないくらい、いい姿を見せてくれるわよ。この被検体は……んじゅず、じゅるるるつ、れるちゅつ……」「…」

マリナ 「はあ、んぐうつ……ああ、あああつ……はあ、はあ……やめ、て……」「…」

闇司祭 「つまらない」とを言つてないで、気持ちよく喘ぎなさい……クチュクチュクチユツ！」

マリナ 「はううつ！ んあつ！ ああああつ！」

マリナ（出したいたい……でも、出したたら連續射精実験に使われる……妹も、ただじや済まないかも……）

マリナ 「んあああつ、あああああつ、んんつ、はあああつ……！」

ナース 「んれるつ、れるるつ……マリナ様の瞳に涙を確認。快感に耐えられなくなつてしまっているようです」

闇司祭 「いい顔ね、もっと見たいわ。咥えたほうが気持ちいいかしら」

女医 「フェラなら……れるじゅつ、れるるつ……わたしもさつきやつたわよ……はふつ、

ん。ふつ、んじゅるつ……」

闇司祭 「条件が違うでしよう。新薬を使ったフェラは、これが初めてになるわ……ああむつ、んじゅつ、ぴじゅつ、じゅるるるつ、はあむつ、れるじゅつ、んじゅつ……んふふつ、チンポがギンギンすぎて顎が大変……はぶつ、んちゅ、むじゅるつ……」

マリナ 「あああ、んああああつ……おくちい、ダメえ……手でもイッちゃいそっだつたのにい……ひい、はあ、んんつ……！」

ナース 「んれるつ、んじゅるつ……出してもいいんですよ……はぶつ、んちゅつ……連続射精実験にはなりますが、いまのつらい状況からは逃げ出せます……あむつ、んじゅつ、じゅるるつ……」

女医 「そつちのほうが、おもしろいかもねえ……んれるつ、んじゅつ、はむつ、んちゅつ……」

闇司祭 「はむつ、ぢるるつ、ぴじゅぐつ、じゅふじゅふつ……でも、この実験も記録にできないともつたいないわ……んじゅるつ、れるじゅぐつ……じゅぼじゅぼじゅぼつ……だから、簡単に出してはダメよ……あむつ、んじゅつ、じゅるるつ……」

女医 「出していいのよ……んじゅるつ、じゅるるつ……そうしたら、わたしと一緒に連続射精実験ができるわよ……れるれるつ……この司祭よりは優しくしてもらえるつて、わかつてるでしょ……んじゅつ、れるちゅつ……」

ナース 「私はどちらでも構いませんよ……んれるつ、れるつ……先生と司祭様のご命令で動くだけですから……はふつ、んちゅつ、じゅるるつ……」

マリナ 「はあはあはあはあはあはあはあ……」

マリナ（出したいたい……出しちやいたい……）「これを我慢したら、絶対におかしくなる……気持ちよくてそうなるんじやなくて、本気で廢人にされる……）

女医 「ほらほら、出していいのよ……んちゅつ」

闇司祭 「我慢なさい……じふじゅふじゅふつ」

マリナ 「ささやか、ないでえ……あぐつ、んぐつ……！」

ナース 「マリナ様は、お耳も敏感でしたね……では、もっと奥まで舌を入れてあげましょう……れろおおおつ」

マリナ 「ふんぐつ……！　あぐつ！　はぐつつ！」

女医 「それおもしろそうね。わたしも……れろおおおつ」

マリナ 「ひんぐつ、ふんぐあつ……！」

闇司祭 「チンポをしやぶってるのは私だつて、忘れてないわよね……じゅ。ふじゅ。ふじゅ。ふじゅ。ふじゅ。ふじゅ。ふ！」

マリナ 「ああああああああああ！ らめえ、激しくしちゃ……んんんっ！」

闇司祭 「じゅ。ふじゅ。ふじゅ。ふじゅ。ふ！」

女医 「れるれるれるれるつ！」

ナース 「れるうつ、れるつ、れろおおおつ！」

マリナ 「イクつ！ もう無理つ……イクつ！ イクうつつ！」

闇司祭 「……ん。ふあつ……イッちやダメつて言つたでしよう？ んちゅつ……れるつ……んじゅるつ……」

女医 「あと一歩でイキそうだつたのに……」

ナース 「……で追い打ちをかけないとは意外です」

闇司祭 「んちゅつ、れろれろつ……実験のためよ……れるつ、少しだけ……んじゅつ、れるじゅつ……手心を加えてあげる……でもお……はむつ、フェラはやめないわよ……じつ

くり……あむつ、弱い刺激を与え続けてあげる……これで少しは我慢できるでしょ……あ
むつ、んじゅつ」

女医 「そういうこと……はむつ、んちゅつ……じゃあ、わたしも焦らしてあげる……ん
じゅるつ、れるつ、これでも十分、精液は溜まるだろうし……れるつ、れろれろつ……
…」

マリナ 「ああああつ……んふうつ、ふう、ふう……ああああつ……！」

マリナ（この人たち、焦らすのもうまい……強制射精させられるような快感はないけど、
射精感が消えない……ギリギリのところで、休めないようにしてる……）

マリナ 「ああああう、んああう、はあああつ……おちんちん、もうちょっと手加減して……
…」

闇司祭 「ダメよお……れるう、んじゅるつ……手心はすでに加えてるんだから……あむつ、
んじゅつ、じゅるるつ、れるつ……んちゅつ……ふあつ、はむつ、んじゅるつ……」

ナース 「マリナ様は、なにをしても感じてしまうんですね……んれろつ、れろおおつ……
私もたくさんの人を実験してきましたが、マリナ様が最も感度がいい身体をお持ちだと思
います……れるう、んれるつ……」

マリナ 「全然、嬉しくない……はあ、ああああつ……つ」

マリナ（ゆっくりなった分だけ、耳もおちんちんも、ねつとり舌が絡んでくる……）

闇司祭「れるつ、じゅるるつ、じゅふじゅふつ……ああむつ、れるつ、ぶあつつ……いつ
ちやいそうちしら？ はあむつ……んちゅうつ……我慢汁も震えも止まる気配がないし：
…じゅふつ、じゅぽつ、はあむつ……」

マリナ「耐え、られる……まだ、これ、なら……ああ、んんう、あああつ……」

女医「とてもそには見えないわね……れろおおおつ……れるううう……れろつ、れ
ろつ……」

マリナ「くつ、ふああつ……あなたには、そう見えるだけでしょ……んんんつ！」

闇司祭「虚しい反論ね、んぶつ、んじゅるつ……背中をのけ反らせながら言う台詞じやな
いわ……あむつ、んじゅるつ、ぢゅりゆつ、ぢゅりゆりゆつ……」

マリナ「あくつ、んんくつ、はあ、あああつ……背中がのけ反つても、我慢できる、こと、
に……あああつ……変わりは、ない……んんつ、あつ、んんんうう……」

闇司祭「なら……ぢるるう……んぶあう、激しくしようかしら」

マリナ「なつ、なんで……」

闇司祭 「じゅろじゅろつ……なんでって、あなたは被検体で、これは実験なのよ？ すぐに射精されたら実験にならないから、じわじわ責めてあげるだけじゃない。忘れたの？」

マリナ（そう、だつた……恋人同士のセックスでも前戯でもない……）

マリナ「忘れて、ないわ……ただ、あなたが虚しい反論つて言うから……はあはあはあはあ……」

闇司祭「焦らすのも限界かしら？」

女医「さつき激しくしすぎたせいね」

闇司祭「……んじゅつ、はむあむつ……射精させてくださいってかわいくおねだりできたら、射精を許可してもいいわよ……はむつ、ぢろろつ……ただし、『かわいく』おねだりできたらだけど……じゅろじゅろつ……」

マリナ「それには、乗らない……んあつ、あああつ……」

闇司祭「どうして……むじゅづつ、じゅるじゅるつ、ちゅつ、ちゅぱちゅぱつ……さつきは出したいつて叫んでたじやないの……んじゅう、れるじゅつ……」

マリナ「あれは……薬のせいでの、叫ばずにはいられなかつただけ……いまは違う……から
……はあはあ……」

マリナ（身体に力が入らないのに、おちんちんだけバキバキになつてゐる……）

マリナ「はあはあ……だか、らあ……んつ、あああつ……まだ射精は、しな、いい……
あつ、んつ……！」

女医「イカせちゃつた方がいいんじやないかしら……れろれろつ、んれろつ、れろつ：
……とても、耐えられそうにはないわよ……あむつ、んちゅつ……このままだと、意図しない
ところで暴発しちゃうかも……あむつ、はあむつ……」

闇司祭「それだつたら、射精させちゃつたほうがいいかも……ち。ふ。ふ。ふつ、ち。ふう……」

マリナ（どう、なるの……？　この人たちが満足するタイミングなら、終わりになるの：
……？　たぶん、そうよね……この人たちの判断で射精させられたら、終わりでいいのよね
……？）

マリナ「はははつ……はあ、はあ……」

闇司祭「あら、笑い始めちゃつたわ」

ナース「記録しておきましょうか」

闇司祭 「どうして笑っているかが重要だわ」

女医 「大方、わたしたちに射精させられたら終わりとでも思つてゐるんでしょ」

マリナ 「違うと言ふの……？」

女医 「想定より早い射精になるんだから、連續射精実験になるのは当然でしょ」

マリナ 「そんな……！」

マリナ（こ）まで我慢したのに……連續実験にならないようにしたのに……）

闇司祭 「残念ね♪ たっぷり射精して、連續実験まで付き合つてもらうわ……あむう、じゅる、じゅるつ、じゅふじゅふじゅふじゅふじゅふじゅふつ！」

マリナ 「ああっ、んんっ！ 出るっ……！ 出るっ……！ 激し、すぎ……っ！」

女医 「こつちも、奥まで……れろおおおおつ、れろれろれろれろつ、れろう、んれろつ……！」

ナース 「たっぷり射精していただきます……れろおおお……れろれろつ、んれるつ、れろつ、れろおおお……！」

マリナ「あああっ、んぐっ、ああっ、ふあああっ！ イクっ、イクイクっ……！」 おちん
ちんイッちやう……おちんちんイッちやう……っ！」

闇司祭「しつかり昂ぶつてからイキなさい……！」
ぢゅふぢゅふぢゅふぢゅふぢゅふつ！
ぢゅ

マリナ（おちんちんの先っぽ、熱くなつちやつたあ……もう出る、もう出る……精液、出

マリナ「あああああああああつ！ イクうううううううううううううううつー！」

マリナ
ーあああ
んああああ
ーああああああ
ー…………！

闇司祭「んく、んくっ……じゅるるるっ、んく、んく……んふふつ、ビクビクど」「ろじや
ないわね……んくつ、じゅるるっ……私の喉を犯そうとしてるみたいだわ……じゅるるっ、
んく、んく……」

ナース「しつかり、すべてお出しください。司祭様は、私と先生以上に出し残しを許しませんから」

マリナ 「吸われてるんだから、出すとか出さないとかじやない……あああああっ！」

闇司祭 「んぶつ……！ また奥から濃いのが……じゅるるつ、んくつ……新薬の効果ね……
……まだこんなに濃厚なのが……じゅるるつ、んじゅるつ……」

女医 「吸えば吸うだけ、濃いのが出てるくんじやない？」

闇司祭 「そうかもしれないわ……じゅるるるつ、んくんくんく……じゅるるつ、じゅ
るつ、じゅるるるつ！」

マリナ 「んおつ、おおおおおつ……！ そんなに吸わないでえ……勝手に出るからあ……
…」

闇司祭 「んつ……！ また……じゅるるつ、んく、んく……じゅるるつ、んくんくんく
……じゅるるるつ！」

ナース 「量が多いですね。記録しておきます」

女医 「わたしがやるわ」

ナース 「では、お任せします」

女医 「司祭が吸えば吸うだけ濃厚な精液を放出。司祭の口内が被検体の精液に犯されて

いつた……と」

闇司祭 「じゅるるるつ、じゅるつ……もつと書き方があるでしょう……んくんく、じゅるるるつ」

女医 「精液を飲み下しながら言われてもねえ」

マリナ 「あああ、んああああつ……また呑気にそんない」と……」

女医 「だつて、わたしは全然つらくないもの」

闇司祭 「じゅるるるつ、じゅるつ、んくんくつ……そろそろ、さすがに終わりかしら……」

⋮

マリナ 「はあ、はあ、はあ……やつと射精しなくなつた……」

闇司祭 「最後に……じゅるるるるるるるるるるるるるつ！」

マリナ 「ふぐうううううううううううう！」

闇司祭 「んつ……ちょっと出てきた……これも吸い上げて……じゅるるるるるるつ……んく、んく、んく、んく……ぶああつ……はあ、はあ、はあ……」

マリナ 「あああああああ……！ あああつ、あああああつ……！」

闇司祭 「んふふつ、『ちそくさま♪ もう咥えてないのに、まだビクついてる』

マリナ （一度の射精で、こんなに……これで、連續実験なんてされたら……）

女医 「じゃ、次の実験ね」

マリナ 「待つて……さすがに今回は休憩を……」

闇司祭 「ダメよ。連續実験なんだから、すぐにやらないと。ナースちゃん」

ナース 「はい、司祭様」

闇司祭 「注入するのは、いまと同じ新薬のほう。それで、実験ほうほうは……」

女医 「一応、医者のわたしが断言するわ。あなたには命の危険はない。もし本当に命の危機に瀕するとわかった場合は、わたしが止めるわ。ここは病院で、死者を出すところじやなくて、命を助ける場所だから」

マリナ 「本当でしょうね……」